

【兵庫県小野市】

校務 DX 計画

文部科学省「GIGA スクール構想の下での校務の情報化の在り方に関する専門家会議提言」に基づく次世代の校務デジタル化に向け、文部科学省が公表した「GIGA スクール構想の下での校務 DX 化チェックリスト」に示されている、教育委員会及び学校が教育 DX を推進する際に取り組むことが望ましい項目を実現するため、本市において、次に掲げる事項を重点的に推進する。

1. 次世代の校務デジタル化に向けた各種ツールの活用

小野市では、校務の効率化や授業の質の改善を図るため、授業支援ソフトなどで蓄積された学習系データ、MEXCBT などの教育行政データ、児童生徒の出欠及び成績情報等の校務系データなど、様々な教育データを自動的に収集・分析・加工して簡潔にまとめ、集計値や表、グラフなどで可視化するための管理ツール（データ連携基盤ダッシュボード）の導入やセキュアな環境下での校務における生成 AI の活用に向けた検討を行う。

2. FAX 及び押印の見直し

小野市では、校務系端末にてグループウェアを利用しており、学校-学校間、市教育委員会-学校間の文書連絡・資料送付に活用している。また、教職員 1 人 1 人に業務用のメールアドレスを付与しており、外部との連絡に利用している。

一方で「GIGA スクール構想の下での校務 DX 化チェックリスト」に基づく自己点検結果の報告によると、保護者・外部とのやりとりで押印・署名が必要な書類があり、クラウド環境を活用した校務 DX を大きく阻害していることが指摘されている。そのため、学校から市教育委員会へ提出される書類の押印廃止の検討を重ねている。

しかしながら、各種関係機関及び学校とやりとりのある事業者においては、紙ベースや FAX での資料配布・提出を学校に求めるケースが見受けられる。緊急連絡や教育ネットワークの不具合時に、FAX のほうが電子メール等より効率的な場合など一部を除き、FAX 及び押印の原則廃止に向けて、各種行政機関及び学校とやりとりのある事業者に対して、市教育委員会から慣行の見直しを依頼するなど、継続的に働きかけを行う。

3. ペーパーレスの推進

小野市では、校内の職員会議等における資料配布については学校サーバ等に保存した電子データを閲覧する、各種マニュアル等はデジタルで共有する等ペーパーレス化に取り組んできた。

今後は、学校間をまたぐ会議等においても、指導者用端末及びクラウドサービスの活用により、会議資料のペーパーレス化を一層推進するとともに、電子決裁システム・勤怠管理システムの導入について研究を進めていく。

4. 次世代校務支援システムの導入に向けて

小野市では、平成28年から校務支援システムを導入し、9年間の学びの充実を図ってきた。次世代校務支援システムの導入に向けての検証など、学校、関係機関と連携を図り、校務DXに向けて今後検討を重ねていく。

5. その他

小野市では、令和6年度教職員一人一人の事情に合わせた柔軟かつ安全な働き方を可能とするため、アクセス制御によるセキュリティ対策を十分に講じた上で、学校・市情報管理担当と連携を図りながら、ロケーションフリーで校務系ネットワークへ接続可能な環境を整備した。また、中学校採点業務の負担解消にむけ、デジタル採点システムの整備を行った。令和7年度には、デジタル時間割作成システムを導入するなど、デジタルの利点を活かした教職員の業務の効率化について今後も調査研究を継続していく。